

男女共同参画に関する診療科等へのアンケート調査結果について

1 アンケート実施内容

- (1) 実施期間 平成 30 年 9 月 25 日 (火) ～10 月 5 日 (金)
- (2) 対象者 診療科等 52 部署
- (3) 回答者 47 部署
- (4) 回答率 90%
- (5) 実施方法 アンケート用紙に直接記入 (任意)
- (6) 集計日 平成 30 年 10 月 10 日 (水)

2 アンケート結果 (総論)

(1) 診療科の現況について

- ① 回答部署 47 部署
- ② 在籍医師数 495 名
- ③ 女性医師数 150 名 (30%) 在籍医師数に対する割合
- ④ 産休・育休取得者数 21 名 (14%) 女性医師数に対する割合
- ⑤ 特別短時間勤務利用者数 14 名 (9%) 女性医師数に対する割合

(参考)

- ・ 全女性医師数 155 名 (未回答部署 5 部署含む。)
- ・ 女性 в籍部署数 36 部署 (69%) 全部署数に対する割合
- ・ 女性 в籍部署回答数 33 部署 (92%) 女性 в籍部署数に対する割合

今回のアンケートは、平成 30 年 3 月に臨床系女性医師を対象に実施した「女性医師が働きやすい環境づくりのためのアンケート」の結果を踏まえ、各診療科等に対して、男女共同参画に関するアンケート調査を実施した結果、52 部署中 47 部署 (90%) からの回答を得ることができた。

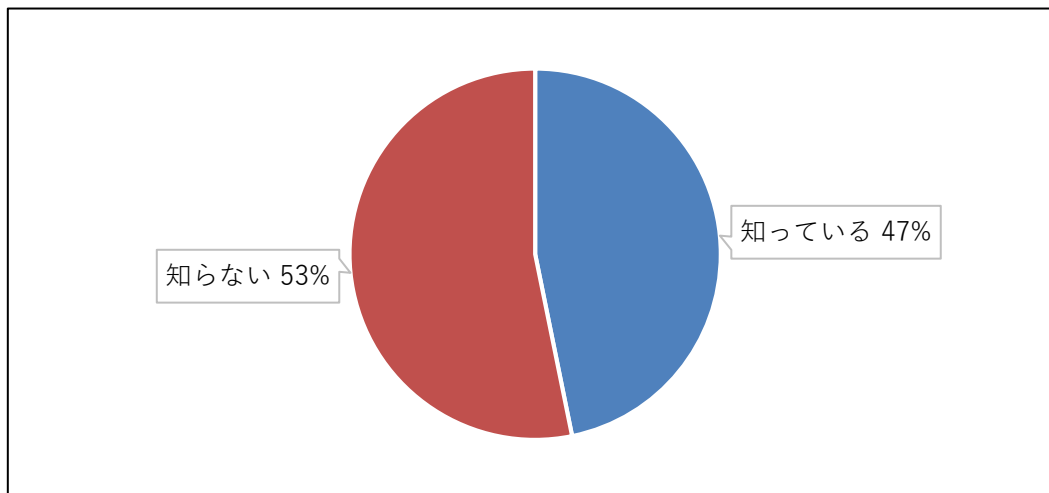
臨床系女性医師へのアンケート結果についての認知度は、50%未満と若干低かったものの、アンケートの回答は各部署の状況を踏まえた回答が選択されており、記述式の項目についても多くの部署から回答を得ることができたことから、男女共同参画に関する関心の高さが窺われた。

また、前回と今回のアンケート結果の比較では、全体的に同様の回答内容が得られたことから、女性医師と診療科の考え方に大きな乖離はないと思われる。

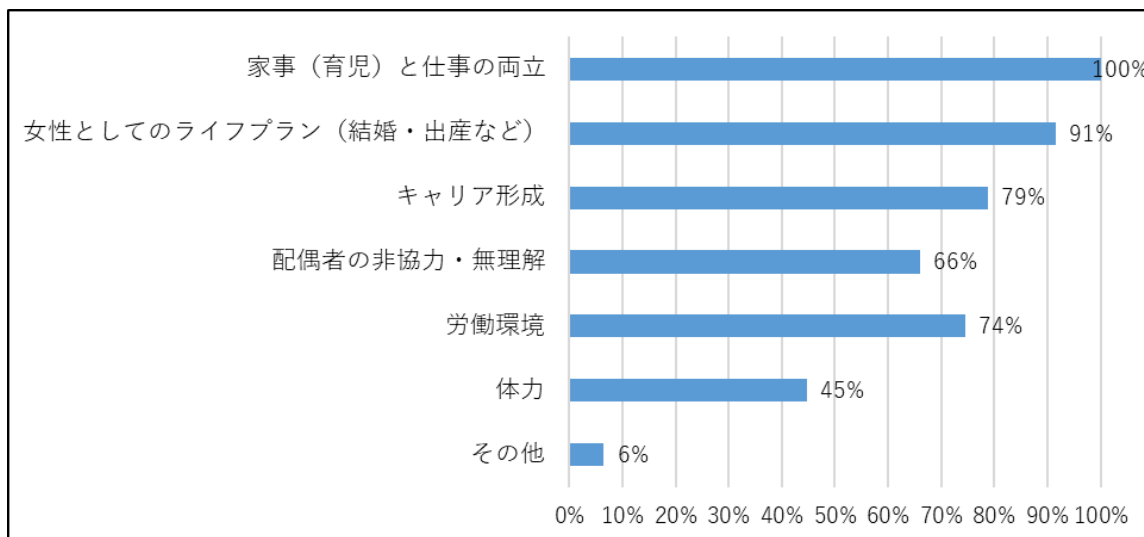
大学への要望については、「病児保育」、「フレックス制」を求める意見が多くある一方、仕事をカバーする医師へのインセンティブ、産休・育休中のポスト流用、特別短時間勤務制度の拡充など各部署の現状に応じた様々な要望も出されている。

3 アンケート結果（各論）

(1) 女性医師が働きやすい環境づくりのためのアンケート結果の認知度について



(2) 女性医師の悩みや不安について（複数選択可）

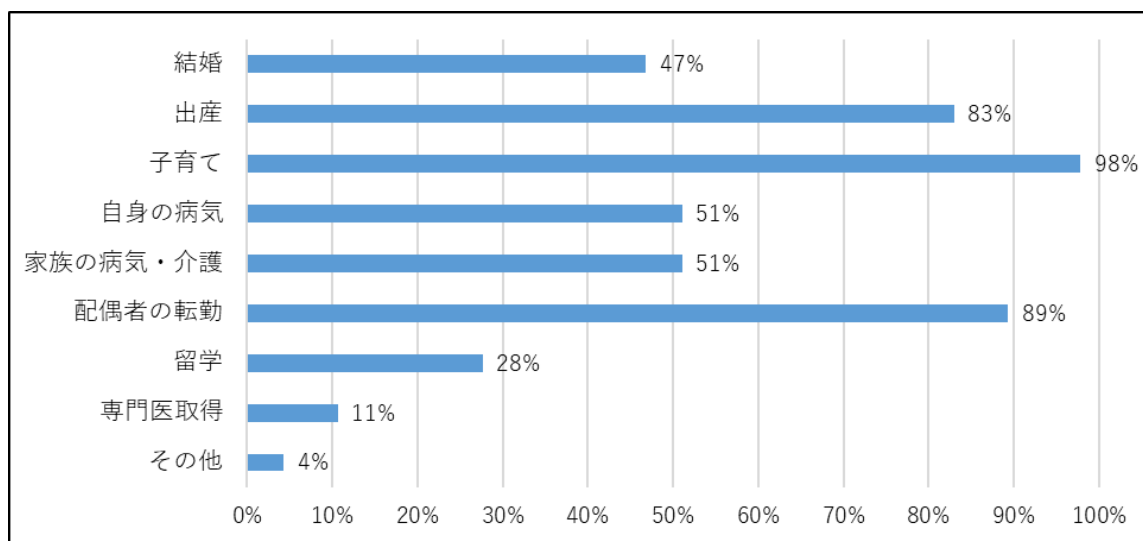


（その他の記述：様々な問題、上司・同僚の協力及び理解、セクハラ）

<参考> 女性医師の回答結果（前回）

- ① 64% 家事（育児）と仕事の両立
- ② 52% 女性としてのライフプラン（結婚・出産など）
- ③ 47% キャリア形成
- ④ 40% 労働環境

(3) 女性医師が休職・離職を考える理由について（複数選択可）

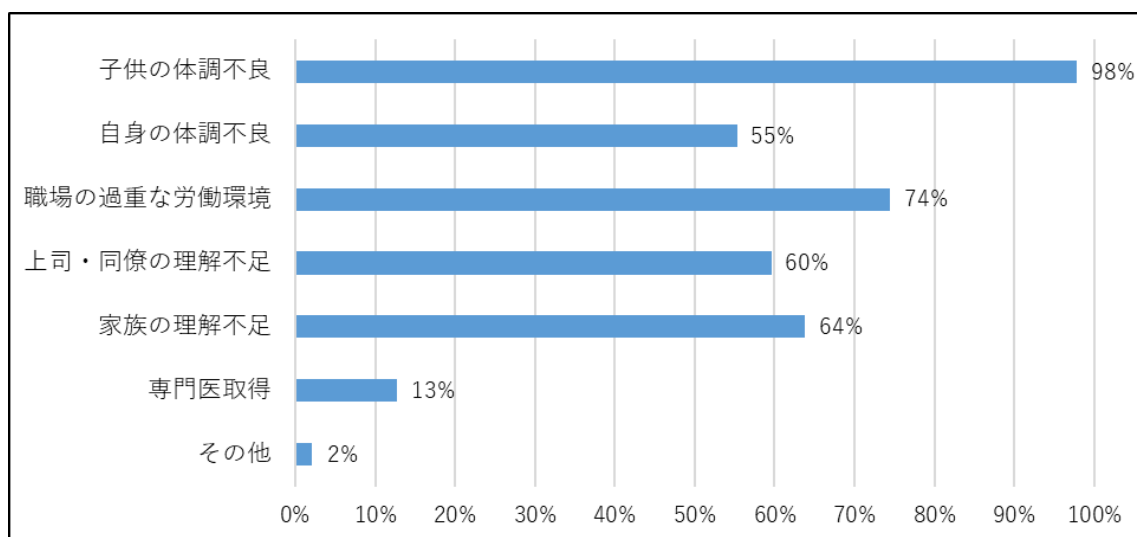


（その他の記述：家族の非協力）

<参考> 女性医師の回答結果（前回）

- ① 93% 子育て
- ② 84% 出産
- ③ 65% 自身の病気，家族の病気・介護，配偶者の転勤

(4) 女性医師が育児をしながらの勤務に対し困難を感じる原因について（複数選択可）



（その他の記述：記載なし）

<参考> 女性医師の回答結果（前回）

- ① 36% 子供の体調不良
- ② 14% 自身の体調不良
- ③ 9% 職場の過重な労働環境

【コメント】

上記グラフに表示した(2)～(4)の調査項目については、臨床系女性医師(前回)に対して実施した調査項目と同様であり、全体的な回答結果としては、女性医師と診療科の選択回答に大きな乖離はないと思われる。

診療科と女性医師の回答に差が見られた項目としては、次のとおりである。

(3) 休職・離職を考える理由について

診療科は「自身の病気、家族の病気・介護」よりも「配偶者の転勤」を上位と考えている。

(4) 育児をしながらの勤務に困難を感じる原因について

診療科は「自身の体調不良」よりも「職場の過重な労働環境」を上位と考えている。

(5) 診療科において工夫している取組について(記述式)

□ 主な意見

- ・ 時間内に終われない業務がある場合は、他の医師でカバーしている。
- ・ カンファレンスは就業時間内に行うようにしている。

(その他)

- ・ 午後業務の負担軽減
- ・ 当直免除又は回数制限
- ・ 情報共有・連絡網
- ・ 複数主治医制
- ・ 主治医制度の廃止 など

<参考> 女性医師の回答結果(前回)

- ・ 特別短時間勤務を利用して良かったこと
 - ① 15% 仕事と家庭の両立がしやすくなった
 - ② 11% 子どもに接する時間が増えて子どもの様子を把握しやすくなった
 - ③ 9% 体力的に楽になった
- ・ 特別短時間勤務を利用していた期間で不自由に感じたこと
 - ① 11% 任せられた仕事を時間内にこなしきれない場合があった
 - ② 10% 夕方以降のカンファレンス等医局行事に参加できなかった
 - 10% ほかの人より早い時刻に帰宅することに肩身の狭い思いをした

【コメント】

多くの診療科においては、他の医師でカバー並びにカンファの時間調整など工夫して取り組んでいるが、診療科の対応と制度利用者の実感が一部異なる場合もあり得る。

(6) 診療科において、困難に感じていることについて（記述式）

□ 主な意見

- ・ 他の医師の業務量が増加し疲弊している。
- ・ 医局員数が少ない。

(その他)

- ・ 欠勤・早退時の対応
- ・ 当直回数の負担増
- ・ 平等・公平に仕事を分担することが困難
- ・ 育児環境の変化 など

(7) 大学への要望について（記述式）

□ 主な意見

- ・ 病児保育
- ・ フレックス制度

(その他)

- ・ アイキッズの定員増
- ・ 大学に残る学生を増やすための制度づくり（奨学金制度など）
- ・ 産休・育休中のポスト流用
- ・ 医局員の増員
- ・ 仕事をカバーする医師への物質的インセンティブ（学内無料食事券・表彰など）
- ・ 小学校入学後の特別短時間勤務制度の利用
- ・ 会議等の勤務時間内実施
- ・ IT活用, FD・SDのe-learningの活用拡大
- ・ 休日の日直業務の管理を大学でコントロール など

<参考> 女性医師の回答結果（前回）

- ・ 女性医師が勤務を継続できるような環境整備として良いと考えられること
- ① 79% 病児保育施設
 - ② 59% 病院敷地内の学童施設（送迎バス付）
 - ③ 27% 病院施設内の塾・習い事等の施設

【コメント】

診療科・女性医師ともに病児保育施設の設置を多く望んでいる。

また、診療科としては、フレックス制度導入、ポスト流用、医局員の増員など柔軟な人事制度を望んでおり、女性医師としては、できる限り子供を病院内に預けられる施設の設置を望んでいる。

【平成30年10月15日 男女共同参画プロジェクト委員会】